

3章 黒沢病院附属ヘルスパーククリニック

3-1. 黒沢病院附属ヘルスパーククリニック概要	70
3-2. 外科（乳腺外科）	71
3-3. 内科	72
3-4. 内視鏡センター	73
3-5. 婦人科	75
3-6. 脳神経外科（外来）	76
3-7. 整形外科	77
3-8. 歯科・歯科口腔外科（外来）	78
3-9. 放射線部	79
3-10. 検査部	81
3-11. 高崎健康管理センター	83
3-12. ヴアレオプロ	86



3-1. 黒沢病院附属ヘルスパーククリニック 概要（2025年度）

名称	医療法人 社団美心会 黒沢病院附属ヘルスパーククリニック
管理者	医療法人 社団美心会 理事長 黒澤 功 黒沢病院附属ヘルスパーククリニック 院長 佐藤 裕一
所在地	〒370-1203 群馬県高崎市矢中町188 tel.027-352-1111（代表）
病床数	19床
診療科目	・泌尿器科 ・泌尿器科（人工透析） ・脳神経外科 ・外科 ・消化器外科 ・乳腺外科 ・整形外科 ・内科 ・消化器内科 ・糖尿病内科 ・内分泌内科 ・脂質代謝内科 ・循環器内科 ・呼吸器内科 ・肝臓内科 ・内視鏡内科 ・婦人科 ・アレルギー科 ・皮膚科 ・美容皮膚科 ・歯科 ・歯科口腔外科 ・放射線科 ・リハビリテーション科 ・形成外科
各種指定	・保険医療機関 ・労災指定医療機関 ・生活保護法指定医療機関 ・指定自立支援医療機関 ・結核予防法指定医療機関 ・指定小児慢性特定疾病医療機関 ・各種健診取扱医療機関（市実施） ・難病患者受入指定医療機関 ・群馬県インターフェロン治療費助成事業契約機関 ・群馬県肝疾患専門医療機関 ・群馬県救急医療協力機関
施設基準	・機能強化加算 ・時間外対応加算1 ・夜間・早朝等加算 ・外来感染対策向上加算 ・連携強化加算 ・明細書発行体制等加算（医科・歯科） ・サーベイランス強化加算 ・ニコチン依存症管理料 ・がん治療連携指導料 ・肝炎インターフェロン治療計画料 ・外来化学療法加算1 ・検体検査管理加算（Ⅰ） ・CT撮影及びMRI撮影 ・エタノールの局所注入（甲状腺） ・エタノールの局所注入（副甲状腺） ・HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定） ・CAD/CAM冠 ・別添1の「第9」の（3）に規定する在宅療養支援診療所 ・在宅時医学総合管理料及び施設入居時等医学総合管理料 ・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算 ・歯科点数表の初診料の注1に規定する施設基準 ・歯科疾患管理料の注11に規定する総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料 ・クラウン・ブリッジ維持管理料 ・歯科口腔リハビリテーション料2 ・外来腫瘍化学療法診療料3 ・BRCA1/2遺伝子検査（血液） ・精密触覚機能検査 ・医療DX推進体制整備加算 ・外来・在宅ベースアップ評価料（Ⅰ）（Ⅱ） ・歯科外来・在宅ベースアップ評価料（Ⅰ）（Ⅱ） ・生活習慣病管理（Ⅰ）（Ⅱ） ・医療DX推進体制整備加算（歯科） ・歯科外来診療医療安全対策加算1 ・歯科外来診療感染対策加算1 ・酸素の購入単価 ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 ・保険医療機関間の連携による病理診断
認定	・ISO9001 ・プライバシーマーク（Pマーク） ・働きやすい病院評価 ・病院機能評価 ・人間ドック健診施設機能評価認定施設（Ver.4.0） ・指定療法運動施設 ・人間ドック健診専門医研修施設 ・人間ドック保健指導実施施設 ・日本脳ドック学会認定施設 ・マンモグラフィ健診施設画像認定

3-2. 外科（乳腺外科）

◆ 概要

乳腺外科では、ヘルスパーククリニック乳腺外来で乳腺疾患の診断・治療、甲状腺疾患の診断・治療を行います。

高崎健康管理センターでの人間ドック、健康診断における乳がん検査・画像診断についての判定を行っています。画像診断は、マンモグラフィーと乳腺超音波検査が基本です。両方の検査の併施が理想的ですが、受診者の都合や当院の検査体制から、両方受ける方、マンモグラフィーのみの方、超音波検査のみの方と色々です。

受診者や検診母体への啓蒙と、当院の体制強化が課題と考えます。そのほかの画像検査、マンモグラフィー3D（トモシンセシス）やMRI検査を受ける方もいます。

人間ドックでは、甲状腺の画像診断やホルモン検査・機能判定も行います。

乳腺外来では、乳房の異常を自覚されてきた方、検診で精査を勧められた方、経過観察中の方などの検査を行います。各種画像検査を組み合わせる検査しますが、悪性が疑われる場合は、穿刺細胞診、穿刺組織診、吸引式組織生検など病理組織学的検査を施行します。

乳がんが発見された場合は手術治療のため専門施設へ紹介しています。高崎総合医療センター、群馬大学医学部附属病院、前橋赤十字病院、藤岡総合病院などが多く、渋川総合医療センター、県立がんセンター等もありました。手術治療を受けた方の中には病診連携より術後の薬物療法や経過観察の依頼を当院で治療を続ける方もいます。

乳腺外来では甲状腺疾患の診療も行い、バセドウ病などの甲状腺機能亢進症や橋本病など甲状腺機能低下症の治療を行っています。甲状腺腫瘍については穿刺細胞診検査での悪性チェックや、経過観察をしています。



尾澤 正俊
外科顧問

◆ スタッフ（2026年3月時点）

尾澤（常勤）、遠藤、菊池、五十嵐、黒住（非常勤）

◆ 2025年度の実績

- ・人間ドック・健康診断の乳がん検診受診者数：13,861名（マンモグラフィー9,986名、乳腺超音波検査 6,707名、マンモグラフィー3D 211名）
- ・高崎市乳がん検診受診者数：1,098名
- ・検診や人間ドックからの乳がん患者発見数 37名、甲状腺がん患者発見数 0名
- ・外来受診者数：マンモグラフィー 891件、乳腺超音波検査 1,304件、甲状腺超音波検査 362件
- ・乳腺外来からの乳がん患者発見数 56名（当院人間ドック・高崎市乳がん検診で要精査となり、乳腺外来を受診して乳がん発見になった方26名を含んだ人数です）
- ・乳腺外来からの甲状腺がん発見者数 0名

*実績集計にご協力いただいた健診センター：井戸谷恵さん、佐藤花音さん、放射線部：長留美さん、検査部：須田朱音さん、医療事務部：村瀬美智子さんに感謝申し上げます。

3-3. 内科

◆ 概要

当院内科では、特定の疾患や臓器に偏ることなく、患者さん一人ひとりの健康上の問題に総合的に対応する診療を心がけています。専門領域が明らかでない症状や体調不良に対する初期診療の窓口としての役割を担い、必要に応じて院内外の専門医や医療機関と連携しながら、適切な診断・治療へつなげています。また、紹介患者さんや当院を初めて受診される患者さんの診療を通じて、地域医療連携にも積極的に貢献しています。

外来診療は予約制を基本としておりますが、初診や予約外の患者さんにも可能な限り対応し、循環器、呼吸器、消化器、肝胆膵、糖尿病など各専門分野の医師による診療を紹介状なしでも円滑に受けていただける体制を整えています。血液・尿検査などの検体検査やCT・MRIをはじめとする画像検査は受診当日に実施可能であり、検査結果の概略についても当日に説明しています。画像検査については放射線診断専門医によるダブルチェックを行い、診断精度の向上に努めています。

また、人間ドック・健康診断後の二次検査や生活習慣病の予防・治療にも力を入れており、健診で異常が認められた場合には速やかな精査・治療介入を行っています。特にドック・健診当日に緊急性の高い異常が判明した際には、当日の外来受診へ案内し、迅速な対応を行っています。診療部門と予防医学部門が連携し、早期発見・早期治療を実践できることは当院の大きな特色の一つです。

2025年度からは、糖尿病専門医の余財医師と感染症専門医の前崎医師が新たに常勤医として加わり、診療体制のさらなる充実を図りました。今後も地域の皆様に信頼される内科として、「寄り添う、傾聴する、丁寧に説明する」を大切にしながら、質の高い医療の提供に努めてまいります。



松本 健
第一内科部長

◆ 2025年度外来実績

- ・ 内科外来患者数（カッコは2024年度）
新患 1,403人（1,436人） 初診 5,721人（5,948人） 再診 13,428人（13,594人）
- ・ CPAP（在宅持続陽圧呼吸療法）治療者数 530人（465人）
- ・ 禁煙外来 初回 34人（27人） 2回目以降 87人（68人）

◆ スタッフ（常勤医）

矢島義昭、前崎繁文、浅香有紀、松本健

3-4. 内視鏡センター

◆ 概要

当センターの特色としましては上部消化管内視鏡検査（以下、胃カメラ）が非常に多い事が挙げられます。北関東一、全国でも有数の件数を誇ります。2025年度も年間3万800件と毎年過去最多記録を更新し続けています。

特に健診・ドックの胃カメラがその大半を占めておりニーズは増え続ける一方です。

受診者の方々の健康意識の高まりや胃カメラが胃がん検診の主流となって来ている昨今の背景によるものと考えます。

当院の常勤医師のみでは到底対処しきれるものではなく、群馬大学内科と外科・済生会前橋病院・前橋赤十字病院等と様々な施設から多くの派遣や個人でも来ていただいている非常勤医師らのご協力の元、2025年度からは毎日7人体制に加え、火・金限定で8人体制も開始しました。月1回の日曜ドック・金曜の午後ドックでも胃カメラを行っております。

8人体制にするにあたって、増築のため大腸内視鏡検査時の着替えや鎮静下の内視鏡後に使用していたヘルスパーク1階内視鏡センターのリカバリー室を潰されてしまい、一部運用に支障が出ましたが、当センタースタッフらの献身的な働きにより問題無いようカバーされております。

優秀な内視鏡常勤医も増員され、胃カメラのみならず、より多彩な内視鏡検査・処置に対応できるよう体制が充実してっており、今後も発展が期待される部門であります。

今後もスタッフ一同、多くの内視鏡ニーズに対応できるよう尽力していく所存です。



小林 勇治

内視鏡センター長

◆ スタッフ（常勤医）

小林勇治、太田英孝、浅香有紀、木暮道夫、水口貴仁

◆ 2025年度の実績（黒沢病院、およびヘルスパーククリニックにおける実績）

健診・ドック	上部消化管内視鏡検査	29,832 件
健診・ドック	下部消化管内視鏡検査	128 件
外来・入院	上部消化管内視鏡検査	1,033 件
外来・入院	上部消化管内視鏡手術（ポリペク、EMRなど）	46 件
外来・入院	下部消化管内視鏡検査	867 件
外来・入院	下部消化管内視鏡手術（ポリペク、EMRなど）	939 件

他にESD 46件、ERCP等 33件も実施

◆ 学術活動

- ・太田英孝，他．大規模健診施設における上部消化管内視鏡検査での十二指腸検査の実態調査．第64回日本人間ドック・予防医療学会学術大会，京都，2025.8.23.
- ・Hidetaka Ohta. Endoscopic submucosal dissection for Helicobacter pylori-negative localized gastric mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma: A case series. UEGW（欧州消化器病学会），Berlin，2025.10.4.
- ・太田英孝，他．食道・胃・大腸364件の内視鏡的粘膜下層剥離術の治療経験．令和7年度秋季群馬県医学会，前橋，2025.12.6.

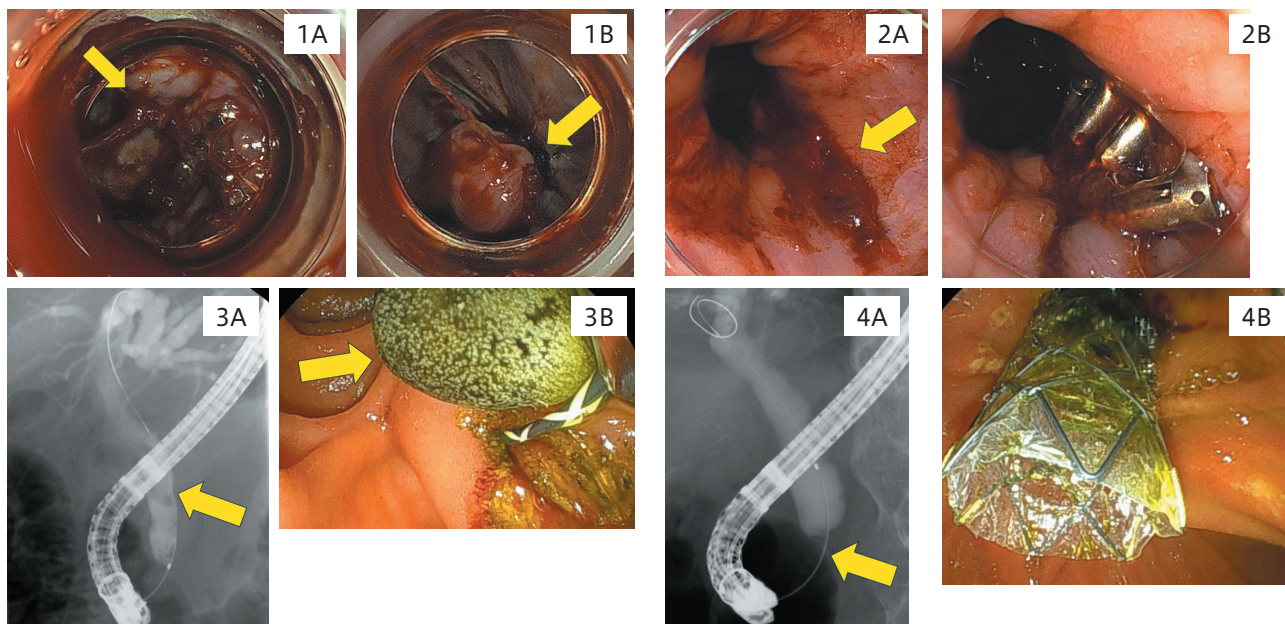
健診から救急まで ― 内視鏡診療の現場から

第二内科医長 水口 貴仁

今年度、黒沢病院は、3月8日に高崎芸術劇場にて第24回健康支援教室を開催し、私は医師講演の1つとして、便潜血検査の重要性と大腸がんについての講演を行わせていただきました。1,600名を超える方々にお越しいただきありがとうございました。講演の内容については当院ホームページにて閲覧できますので、お越しいただけなかった方も是非、一度閲覧いただければ幸いです。

さて、先述のとおり、当院では健診・ドックを中心に、多くの受診者の上部消化管内視鏡検査（以下：胃カメラ）を行ってきております。また、高崎市の胃がん健診における胃カメラの実施についても、多くの方の要望をいただいております。そこで2026年6月より、高崎市胃がん健診のための検査枠を新たに拡充しましたので、是非当院でご受診ください。

黒沢病院は年間4,000台以上の救急車を受け入れる急性期疾患の診療も担っています。私は2024年度より当院の診療に携わらせていただき、義歯などの異物誤飲をはじめ、吐血、血便などの消化管出血など緊急内視鏡治療を要する多くの患者さんの診療も行っていました。また私は胆道や膵臓疾患を専門としており、総胆管結石などの内視鏡的逆行性胆管膵管造影（以下：ERCP）にも力を入れて診療を行っております（下図）。今後とも当院黒澤理事長が掲げている、皆様の健康寿命を守る責務を全うしていくとともに、地域医療に貢献していきたいと存じますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



症例1：アルコール性肝硬変に合併した食道静脈瘤から噴出性の出血を認めた症例（図1A）に対し、内視鏡的静脈瘤結紮術（EVL）を施して止血を得られた（図1B）。

症例2：繰り返す嘔吐後の吐血。食道胃接合部にマロリーワイス症候群による裂創を認めた症例（図2A）に対し、内視鏡的にクリップを用い、縫縮術を施して止血した（図2B）。

症例3：総胆管結石症例（図3A）を内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査（ERCP）にて排石した（図3B）。

症例4：膵がんによる胆管浸潤のため閉塞性黄疸をきたしている症例（図4A）に対し、胆管内に金属ステントを留置して閉塞を解除した（図4B）。

3-5. 婦人科

◆ 概要

高崎健康管理センターの婦人科検診

「毎年子宮がん検診を受けていたのに子宮体がん（以下体がん）だった、卵巣がんだった、発見してもらえなかった」という話を時々耳にします。我が国の婦人科がんの統計を見ると、頸がん：体がん：卵巣がんの割合は1975年には74：8：18で圧倒的に頸がんが多かったのが、その後頸がんは横ばいで、一方、体がんと卵巣がんは増加し、最新の2022年の統計では25：44：31で体がんが最も多く、次いで卵巣がん、頸がんは最も少ないという結果でした。にもかかわらず、子宮頸部細胞診と内診のみの婦人科検診が少なからず、この方式では体がんと卵巣がんの診断は不可能です。2022年4月から当院の婦人科検診は経膈超音波検査（以下TVUS）がオプションで追加となり、体がんと卵巣がんノーマークの状態ではなくなりました。導入初年度のTVUS施行率は35.1%でしたが、その後の4年間では増加することなく減少傾向で今年度は27.7%でした。今後、再び増加に転ずるためには何をするべきか、体がんと卵巣がんを見逃さない検診を日々意識して取り組んでいます。



岸 東彦
婦人科医師

外来状況

2020年4月の自分の入職で婦人科2人体制に、その翌年の酒井医師入職で3人体制となってから5年。この間の婦人科外来の延べ受診者数は、2019年度の1,061名から2023年度の3,058名と4年間は増加し続けるも、2024年度：3,025名、2025年度：2,964名と、ここ2年は僅かずつ前年度を下回りました。60代後半2名と70代1名の男性婦人科医では患者さんの受け入れにも限りがあると思われ、何らかの打開策を講じなければ次年度もさらなる外来数低下を招くのではと憂いていたところ、次年度より、女性婦人科医師2名が新部長、新副部長として入職されることになりました。若返り、世代交代とともに女性婦人科医師主体の外来担当表は斬新で再度の業績増加が期待し得ます。

婦人科の特殊性として、職員が自施設婦人科への受診を躊躇うことは他科に比べると少なくありません。我々男性婦人科医が口頭で相談に乗ることはあっても、実際に外来で診察をおこなうことはほぼありませんが、女性医師なら受診を躊躇することは減ると思われます。職員の方々がわざわざ他施設に受診しなくても、勤務の合間を縫っての投薬や相談が可能となれば利便性は向上し、働く女性の手助け、働きやすさの向上をもたらすと思われます。また職員でなくても若年者は特に女性医師を希望される傾向が強いので、外来担当が女性医師主体となること、また増員により婦人科外来が全ての曜日において対応可能となることで、次年度以降の外来受診者数は再び増加に転じるものと期待しています。

◆ 2025年度実績（カッコ内は2024年度実績）

- ・婦人科健診受診者数 17,393名（16,886名）、TVUS受診者数 4,814名（4,507名）
- ・外来延べ受診者数 2,964名〔初診155名、再診2,809名〕（3,025名〔170名、2,855名〕）

◆ 学術活動

- ・岸東彦，他．10代の卵巣成熟嚢胞性奇形腫茎捻転の2例．第66回日本人間ドック・予防医療学会学術大会，京都，2025.8.23.
- ・岸東彦，他．人間ドック婦人科検診の経膈超音波検査で発見された卵巣癌Ⅰ期の3例．令和7年度秋季群馬県医学会，前橋，2025.12.6.

3-6. 脳神経外科（外来）

◆ 概要

2025年度のヘルスパーククリニック脳神経外科外来受診者数は初診2,746名（2024年度2,713名）、再診12,553名（2024年度12,267名）であり、2023年度以降2年連続で増加傾向となっております。不安を抱えて来院した患者さんや、当科を信頼して紹介して下さる地域の先生方の気持ちを汲み取り、真摯で丁寧な診療を行うよう努めております。

ここ数年は頭部外傷の初診患者さんが増加しております。また、季節の変わり目（特に毎年6月）になると気象病による頭痛やめまいの症状で受診する方が多くなります。軽度に思える主訴であっても重大な病気が潜んでいないか精査を行ったうえで、患者さんに適した生活指導や投薬加療を行ってまいります。脳卒中慢性期の患者さんに対し、再発予防や後遺症による身体的苦痛、社会生活上の不安などにできる限り対応し、包括的な医療を提供できるよう心がけています。

2025年4月から2026年3月までの間、高崎健康管理センターで脳ドック（脳検診、もの忘れドック含む）を受けた方は1,334名でした。異常所見を認めた人数は、以下のとおりです。

○未破裂脳動脈瘤45名（前交通動脈瘤13名、中大脳動脈瘤7名、内頸動脈瘤17名、椎骨動脈瘤6名、後大脳動脈瘤2名）。このうち2名が治療適応のある大きさの動脈瘤であり、1名が開頭クリッピング術、1名がコイル塞栓術を当院で行い経過良好です。その他の方は全例、当院脳神経外科外来またはドックで経過観察予定となっております。

○脳腫瘍10名（髄膜腫6名、海綿状血管腫1名、ラトケ嚢胞2名、下垂体腫瘍1名）

全例が無症候性であり、今後は定期検査での経過観察予定です。

○脳血管狭窄23名（内頸動脈11名、椎骨動脈3名、中大脳動脈7名、前大脳動脈2名）

全例が無症候性であり、当科外来で生活習慣病の管理をしながら経過をみております。

本年より放射線科が脳ドックのMRA画像において、VR法による3D-MRAを標準的に作成しており、微小な動脈瘤等の診断精度が向上していると実感しております。今後も外来、ドックともに、安心して診察を受けていただけるよう丁寧な診療を心がけてまいります。

今後ともご指導の程をよろしくお願い致します。



中島 まゆ

脳神経外科医師

◆ スタッフ（2026年3月時点）

大森重宏（黒沢病院副院長）、小倉文司（脳卒中センター長）、塚越瑛介、木村辰規、中島まゆ

◆ 2025年度実績

・外来延べ患者数：新患2,746名、再診12,553名

（脳腫瘍35名、頭部外傷1,287名、頭痛689名、めまい397名、認知症77名、てんかん81名）

・高崎健康管理センターにおける脳ドック受診者数：1,334名

3-7. 整形外科

黒沢病院附属ヘルスパーククリニックで整形外科・リウマチ科の外来を担当させて頂いております岡邨（おかむら）です。現在、当クリニックでは、下記の整形外科専門医により、整形外科診療を行っております。



岡邨 興一
整形外科医師

また、2026年4月からは、長島泰斗先生を常勤として迎え、外来コマ数の増加だけでなく、入院患者さんへ今まで以上に細かい対応が可能になっています。

診療内容としては、一般整形外科診察に加えて、リウマチ専門医によるリウマチ・膠原病の診断および治療、脊椎外科専門医（首や腰の骨の専門医）による外来、高崎総合医療センター整形外科からの逆紹介患者の受け入れ、近隣の内科・外科クリニックからの紹介の受け入れ、整形外科専門病院やクリニックとの連携等を通して、患者さんに最適な医療を提供しています。

黒沢病院附属ヘルスパーククリニックの誇れる部署の一つとして、検査センターがあると思います。検体検査が必要な患者さんには、より迅速に、通常なら外注しなければいけない検査項目も院内検査で実施することが可能であり、迅速な結果確認ができます。また、感染症疑いの際に実施する細菌検査も、院内で迅速に対応してもらえます。患者さんに必要なことには投資をするという病院の姿勢がうかがえます。

2025年4月～2026年3月の外来患者数は5,650名でした。2026年度は、長島先生の就任に伴い、整形外科外来の開設日が増加し、患者さんはより一層アクセスしやすくなっています。また、救急外来を受診され入院された患者さんや、他科入院中に整形外科医の診察が必要な患者さんのフォローも、常勤医による病棟回診が行えるため、患者さんの負担が少なく済むようになりました。

当院を受診された方に最適な治療ができるように、整形外科診療を行っていきたいと思っております。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

2026年4月 外来診療スケジュール

	月	火	水	木	金	土
AM		岡邨 興一*		松尾 亮平	長島 泰斗	岡邨 興一*
PM	長島 泰斗	長島 泰斗	岡邨 興一*	松尾 亮平	長島 泰斗	①西野目昌宏★ ②鈴木 隆之 ③荒 毅★ ④柳澤 健太 ⑤坂根 英夫*

*リウマチ専門医 ★脊椎脊髄外科専門医

3-8. 歯科・歯科口腔外科（外来）

◆ 概要

当科の特徴は4つあります。①外科処置の紹介治療。近隣の一般歯科診療所とも地域連携し、抜歯をはじめとした外科治療を行っています。②有病者および高齢者の歯科治療。何らかの疾患（高血圧症、糖尿病、脳梗塞、ペースメーカー、人工透析、がん治療、認知症など）を有する方、または脳梗塞後の後遺症などで身体的に障害のある方、高齢社会に伴い90歳を超えるような超高齢な患者さんを多く診ています。

全身状態へ配慮した治療、治療用の椅子への着席や姿勢を保持することが困難な方への対応など、バリアフリー対応だけではなく、難度のある治療への対応を整え、緊急事態が発生した際の対応も整えています。③医科歯科連携の医療提供。病院内歯科として、周術期管理や睡眠時無呼吸症候群の治療など、医科と歯科の連携をスムーズに行い、より多面的な治療の提供につなげて効果を出しています。④専門外来としてのインプラント治療。経験豊富なインプラント専門医（非常勤医師）と連携し、治療難度の高い症例（具体的には、高齢者・高血圧などの疾患を有する方・骨が薄いあるいは脆弱な方など）に対しても、当院手術室にて全身管理の元で行うなど、高度医療の提供体制も有しています。



小林 充典
歯科医長

◆ ヘルスパーククリニック歯科・歯科口腔外科のスタッフ

常勤歯科医師2名、非常勤歯科医師6名、常勤歯科衛生士5名、非常勤歯科衛生士1名、受付1名

◆ 2025年度実績

- ・外来延べ受診者数 11,616名（2024年度は、10,862人）

◆ 2025年度の学術活動（下記以外に、専門学校、関連協会などにおける講演多数）

- ・小林充典. 睡眠時無呼吸の予測因子としての内臓脂肪に関する指数の評価（口頭発表）. 日本睡眠学会第49回定期学術集会, 広島, 2025.6.28
- ・小林充典. 睡眠時無呼吸の予測因子としての内臓脂肪に関する指数の評価（ポスター発表）. 第66回日本人間ドック・予防医療学会学術大会, 京都, 2025.8.22
- ・小林充典. 睡眠休養感と健康寿命の延伸ー日本の課題と今後の方向性ー（シンポジウム）. 第66回日本人間ドック・予防医療学会学術大会, 京都, 2025.8.23
- ・小林充典. 高齢者閉塞時睡眠時無呼吸に対する口腔内装置の有効性の検討（ポスター発表）. 第16回日本臨床睡眠医学会学術集会, 福岡, 2025.10.10
- ・小林充典. 内臓脂肪指標による閉塞性睡眠時無呼吸の予測における年齢層別のROC解析（口頭発表）. 第24回日本睡眠歯科学会・学術集会, 名古屋, 2025.10.12
- ・Kobayashi, M. Dental and Overall Health in Sleep Medicine — from oral appliances to nutritional management（Oral）. 台湾耳鼻咽喉頭頸外科医学会第119回学術演講会, 台南, 2025.11.16
- ・Kobayashi, M. Evaluation of the Efficacy of Oral Appliances for Obstructive Sleep Apnea in the Elderly（Poster）. 第17回日本・台湾耳鼻咽喉科・頭頸部外科学会, 台南, 2025.12.5
- ・小林充典, 黒澤功. 睡眠休養感向上に向けた「職員健康サポートプログラム」の取り組みと評価 —アンケート結果からの検討—. 群馬医学(0285-0656)122号, 2026.01

3-9. 放射線部

見田 尊（課長）

◆ 概要

2025年度は、高額医療機器であるMRI装置（PHILIPS社製 MR5300）、およびCT装置（SIEMENS社製SOMATOM X.ceed）を導入しました。MR5300の導入により、各検査時間が短縮され、高画質な画像の取得が可能となりました。特に心臓MRIでは冠動脈の描出能が大幅に向上し、診断精度の向上に寄与しています。また、SOMATOM X.ceedの導入により、現場の視点から見てもスループットが大幅に向上しました。AIによる自動位置認識機能が搭載されており、臓器や部位を自動で認識し、適切な画像処理を高速におこなうため、放射線技師の作業量が大幅に削減されています。作業効率の向上により、1時間当たりの検査数が増え、多くの検査に対応できるようになりました。これらの高額な医療撮影装置の更新を計画的に進めていただいた美心会に感謝いたします。

また、STAT画像（緊急・至急画像）への対応を強化しました。部内カンファレンス（写真）を定期的に行うことで、各部員の読影スキルが大幅に向上し、STAT画像への対応力も高まっています。健診、救急、脳卒中など、さまざまな領域での所見の見落とし防止に努め、成果を上げています。



◆ スタッフ（2026年3月時点）

放射線技師17名

◆ 2025年度実績

- ・レントゲン画像検査（健診、外来、病院の合計）：95,186件
- ・CT画像検査（健診、外来、病院の合計）：17,418件
- ・MRI画像診断（健診、外来、病院の合計）：11,910件

◆ 2025年度学術活動

- ・浦野晨太郎. STAT画像報告. 群馬CT研究会, 高崎, 2025.6.26.
- ・小渕達也. 脾内副脾、脾管癌との鑑別に苦慮した濾胞性脾炎の1例. 第66回日本人間ドック・予防医療学会, 京都, 2025.8.22.
- ・齋藤秀一. 胸部レントゲンAI読影システムが画像診断に有効であった症例. 令和7年度秋季群馬県医学会, 前橋, 2025.12.6.
- ・見田尊. 最新MRI装置導入により除外可能となった心臓MRA狭窄の1例. 令和7年度秋季群馬県医学会, 前橋, 2025.12.6.

マンモグラフィ検査

長 瑠美（副主任）

マンモグラフィ検査は、乳房専用のX線撮影装置を用いておこなう検査です。乳房を薄く広げてのばし、圧迫板という固定用の板で固定して撮影をおこないます。個人差はありますが、乳房を圧迫するため、痛みをともないます。肩の力を抜いてリラックスした状態で検査を受けていただくことで、痛みの軽減につながります。当院では、検査室に音楽を流したり、壁紙を明るく華やかなものにするなど、緊張感を和らげる工夫をしています。

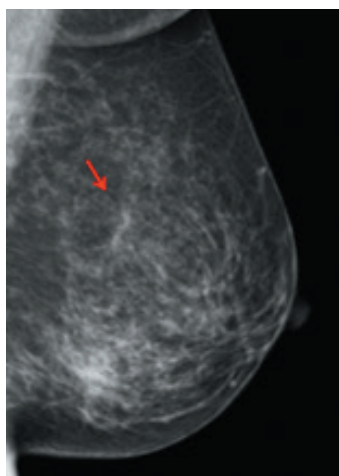
検査はすべて女性の放射線技師が担当し、検査中の声かけを心がけています。検査に不安がある方や、初めてでどうすればよいか分からない方にも、気持ちに寄り添った対応を心掛けています。

当院にはマンモグラフィ装置が2台あります（写真左：FUJIFILM社製 AMULET Innovality、右：GE社製SenoClaire）。いずれも「マンモグラフィ検診施設画像認定」を取得しています。これは、NPO法人日本乳がん検診精度管理中央機構による書類審査、画像評価、線量評価を受け、評価基準を満たした施設のみが取得できる認定です。

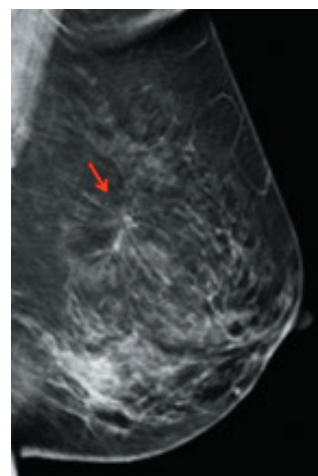


3Dマンモグラフィ

撮影方法は従来のマンモグラフィ（2D）と同様に乳房を圧迫しておこないますが、多方向から撮影することにより、CTやMRIのように画像を輪切りで見ることができます。2Dと比較して圧迫時間は長くなりますが、情報量が格段に増えることで、乳腺の重なりによる病変の見逃しを減らすことができます。装置の性能向上により、以前より短時間で撮影ができることに加え、低線量で高画質な画像が得られ、読影しやすいデータを提供できるなど、各社でさまざまな技術開発が進められています。



通常の2D画像



3D画像
（トモシンセシス）

今後の展望

日本人は欧米人と比較して乳腺濃度が高い、いわゆる高濃度乳房の方が多いといわれています。そのような方でも病変を見つけやすくする撮影方法が3Dマンモグラフィです。当院で3Dマンモグラフィの撮影が可能な装置は現在1台

のみですが、今後は需要増加が見込まれるため、3Dマンモグラフィに対応した新しい装置の導入や読影環境の整備を進め、外来・健診ともに3Dマンモグラフィの検査件数を増やしていきたいと考えています。

検査は痛みをともなうこともありますが、「自分の身体を守るための大切な時間」と感じただけよう、私たちはこれからも技術と心の両面から寄り添い、安心して検査を受けていただけるよう努めてまいります。

3-10. 検査部

原田 和彦（課長）

◆ 概要

当院検査部では、検体検査や生理機能検査を通じて、診断・治療に欠かせない情報を提供しています。臨床検査技師の役割と重要性は、過去、現在、そして未来にわたり変わることはありません。一方、近年の医療分野ではAI技術の進歩が著しく、その発展は医療全体に大きな変革をもたらしつつあります。臨床検査の領域でもAIの活用は現実的な段階に入り、すでにさまざまな場面で導入が進んでいます。例えば、AIを活用した超音波技術の進展により、遠隔医療や検査の自動化が可能となり、専門医が不足する地域でも質の高い医療の提供が実現しつつあります。また、血液・尿・生化学検査における異常値の自動検出や、病理画像解析によるがん細胞の検出など、AIは検査精度の向上と安全性の確保に大きく寄与しています。当部でも、こうした医療の変化を踏まえ、AIの導入を積極的に進めていきたいと考えています。AIは膨大なデータを瞬時に解析し、微細な変化を高精度に捉えることで、ヒューマンエラーの低減や検査の信頼性向上が期待されます。AIと臨床検査技師がそれぞれの強みを生かして協働することで、より正確で質の高い検査体制を構築することができます。ただし、AIだけで検査が完結するわけではありません。検体の状態確認や装置管理、AIが示した結果の妥当性の評価など、最終判断には臨床検査技師の専門知識と経験が欠かせません。そのため当部では、AIを適切に活用できる技師の育成にも力を入れ、超音波検査士や一級・二級臨床検査士などの上級資格の取得や専門研修への参加を積極的に推進しています。その成果として、2025年には超音波検査士、二級臨床検士（神経生理学・循環生理学分野）、緊急臨床検査士の認定を取得しました。どれほどAIが発展し、臨床検査の多くを担うようになったとしても、私たちは「人と人との関わり」を第一に考え、患者さんが安心して検査を受けられる体制づくりに努めてまいります。

◆ スタッフ数（2026年3月現在）

臨床検査技師 33名（正職員：19名 パート職員：14名）

◆ 2025年度実績

- ① 超音波検査件数（入院・外来・ドック）：68,851件（前年度比102%）
- ② 生化学検査数（入院・外来）：51,856件（前年度比104%）

◆ 2025年度学術活動（他、美心会グループ内の発表あり）

- ・木村亮太，他．脂肪肝の grading における「矢島の基準」と「小委員会の基準」の比較．第66回日本人間ドック・予防医療学会学術集会，京都府，2025.8.22.
- ・新井綾乃，他．新・矢島の基準による脂肪肝の grading とインスリン抵抗性の関係．第66回日本人間ドック・予防医療学会学術集会，京都府，2025.8.22.
- ・高柳玲衣，他．人間ドックの眼底検査でのパニック対応（Keith-Wagner III 群の拾い上げ）．第66回日本人間ドック・予防医療学会学術大会，京都府，2025.8.22.
- ・齋藤雄大，他．人間ドックにおける白血球数の基準値の検討．第66回日本人間ドック・予防医療学会学術大会，京都府，2025.8.22.
- ・木村亮太，大規模健診データに基づくMASLD有病率検証と脂肪肝Gradingの臨床的意義．第84回日本公衆衛生学会総会，静岡県，2025.10.29.

検査室から広がる予防医療の可能性

木村 亮太（主任）

検査室は病院の中では必ずしも目立つ場所ではありません。しかし、私たちが日々扱う検査結果は、診療方針の決定や健康状態の把握に欠かせない情報であり、医療の土台を支えています。近年、検査室の役割は「結果を返すこと」にとどまらず、蓄積されたデータや日々の気づきから新たな知見を見だし、予防医療の発展にもつながるものだと感じています。

当院検査部は、健診・外来・病棟の検査を幅広く担当しています。2026年3月時点で、正職員19名、パート職員14名が在籍しており、20代・30代の職員も多い活気ある部署です。職員一人ひとりが段階的に成長できるよう、教育と人材育成を大切にしています。特定の業務だけに固定せず、検体検査から生理機能検査まで幅広く経験できる体制を整え、臨床検査技師としての総合力を養うとともに、それぞれの興味や適性に応じた専門性の向上を目指しています。

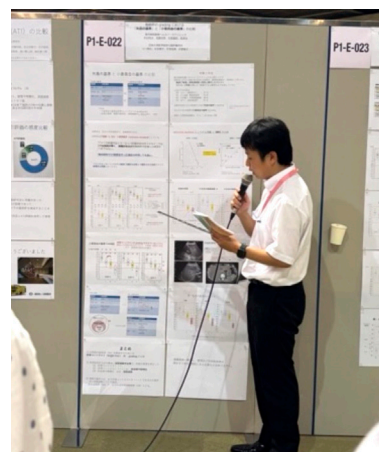
特に超音波検査は、当院検査部の大きな強みの一つです。人間ドックにおける腹部超音波検査は1日160件前後にのぼり、多くの症例を経験することができます。また、超音波専門医である矢島医師（高崎健康管理センター長）による勉強会を毎週開催し、実際の症例をもとに、画像の見方や所見の考え方を学んでいます。豊富な症例と専門的な指導を通じて、日々の検査そのものが学びの場となっています。

資格取得や学術活動にも積極的に取り組んでいます。検査部には、超音波検査士、二級臨床検査士、緊急臨床検査士などの資格を有する職員が在籍しており、それぞれの専門性を日常業務に活かしています。2025年度は、日本人間ドック・予防医療学会学術大会で5演題（写真は、同学会におけるポスター発表）、日本公衆衛生学会総会で1演題の発表をおこないました。

日常業務の中で生まれた疑問を研究課題として整理し、院外へ発信することは、検査の質を高めるうえでも重要な取り組みです。私自身も2024年度から2年間、群馬大学大学院パブリックヘルス学環の修士課程で学ぶ機会をいただきました。職場の理解と支援を受けながら、公衆衛生学、疫学、統計学を学び、超音波画像とAIを用いた脂肪肝評価に関する研究に取り組みました。その中で改めて感じたのは、当法人に蓄積された健診データの価値です。長年にわたり蓄積された質の高い健診データは、地域の健康状態を映し出す貴重な財産であり、予防医療の発展につながる大きな可能性を秘めています。

こうした学びや研究活動は、個人の経験や成果にとどまるものではありません。学会発表や院外で得た知識を部内で共有し、日々の検査の質の向上や職員教育、業務の見直しにつなげていくことで、検査部全体の力を高めていきたいと考えています。

これからも当院検査部は、職員一人ひとりの学び続ける姿勢を大切にしながら、教育・資格取得・学術活動を通じて成長を続け、地域医療と予防医療に貢献できる検査部を目指してまいります。



検査部スタッフ

3-11. 高崎健康管理センター

◆ 概要

——— 日本一の人間ドックを目指して ———

昨年度の当施設の健診受診者総数は4万人を突破しました。また、今年の6月からは午後ドックもスタートしており、さらなる増加が見込まれます。今年の4月からは埼玉医科大学感染症科の教授を退官された前崎副センター長が赴任しており、また健診の婦人科領域を担当する二人の女性医師も赴任されて、当健診センターの陣容は一段と充実しております。

当センターでは、精査や治療が必要な項目については、当日に結果をお知らせして、併設のクリニックで精査の予定を立てるか、他院での検査を希望される場合は画像を添えた紹介状を作成してお渡ししております（パニック対応）。この場合に待ち時間が発生していましたが、今年からはセンター長の私がパニック対応に専任するようになり、待ち時間の解消に努めております。

今後はスタッフ間の連携を密にして、受診者のニーズを反映させて、日本一の人間ドックを目指して更なる改善を重ねてまいります。



矢島 義昭
内科診療部長
高崎健康管理
センター長



腹部エコー検査技師に対する勉強会



保健師に対する勉強会

◆ スタッフ構成（2026年3月時点）

事務 30名（内、正職員27名）、保健師 10名（同：8名）、看護師 11名（同：3名）、計測・診察介助 10名（同：0名）、案内係 28名（同：2名）、合計89名（同：40名）

◆ 2025年度実績

- ・受診者数：人間ドック 41,535名（前年度比 105.0%）、健康診断 16,739名（同：99.2%）
- ・宿泊ドック 544名、全身MRI 118名、心臓MRI 19名、脳ドック 1,428名
- ・健康支援教室を開催（高崎芸術劇場にて、2025.3.8）

◆ 学術活動

- ・多胡奈央子，他．当健康管理センターにおける受診者トラブルへの対応．第66回日本人間ドック・予防医療学会学術大会，京都，2025.8.22.
- ・原悠，他．当センター人間ドック・健診受診者における生活習慣病と食事・運動状況の関係．第66回日本人間ドック・予防医療学会学術大会，京都，2025.8.23.
- ・山崎牧子，他．便潜血検査陽性が2年以上連続する精検未受診例における大腸がん発見率．第66回日本人間ドック・予防医療学会学術大会，京都，2025.8.23.

- ・望月静佳，他．当院人間ドックにおいて検査中止を検討すべきであった3事例．第66回日本人間ドック・予防医療学会学術大会，京都，2025.8.23.
- ・植井小亜矢，他．当院人間ドックにおけるキャンセルポリシー導入の効果～受診者利益からの検討～．第10回美心会グループ学術大会，黒沢病院，2026.2.15.
- ・原悠，他．食事・運動習慣と生活習慣病関連状態の関係～当院人間ドック・健診受診者の問診票回答データを活用した大規模調査～．第10回美心会グループ学術大会，黒沢病院，2026.2.15.

健診発展に向けたさらなる挑戦

吉原 尊樹（事務長）

①受診枠の確保・拡充に向けた新たな挑戦

当センターでは、開設以来、受診を希望される企業、健康保険組合、個人の皆さまのご要望にお応えできるよう、継続的な改善に取り組んでまいりました。2025年度の最も大きな取り組みは、キャンセルポリシーの導入です。これまで当センターでは、1か月当たり約200件のキャンセルや日程変更が発生していました。直前のキャンセルで空いた受診枠を他の希望者へご案内できず、受診機会の損失が生じる状況が続いていました。こうした状況を踏まえ、受診日の7日前から当日までの人間ドック・健康診断のキャンセルおよび日程変更、また内視鏡検査の当日キャンセルについて、やむを得ずキャンセル料を設定しました。導入にあたっては数年にわたり慎重に検討を重ねましたが、多くのご利用者のご理解をいただき、キャンセルや日程変更が大幅に減少したことで、実質的な受診枠の拡充につながりました。その結果、2025年度の人間ドック受診者数は42,078人となり、初めて4万人を超え、過去最多を更新しました。

②積極的な学術活動

2025年度も積極的に学術活動に取り組みました。特に、京都市で開催された「第66回日本人間ドック・予防医療学会学術大会」（8月22日～23日）では、当法人から一般演題13題、シンポジウム2題の計15演題を発表し、本大会の最多演題発表施設となり、梶田 出 学術大会長から直接ご評価をいただきました。さらに、当センター主任看護師の望月静佳による発表「当院人間ドックにおいて検査中止を検討すべきであった3事例」が、医療系情報誌『Medical Tribune』Web版に掲載されることとなりました。

③健診施設機能評価の更新審査受審

12月に、公益社団法人日本人間ドック・予防医療学会が実施する第三者評価「健診施設機能評価」の更新審査を受審しました。本評価は、人間ドック・健康診断を通じた健康寿命の延伸と予防医療の推進を目的としたもので、5年ごとに審査が行われます。当センターでは、2006年の初回認定以来、4回目の更新審査となりました。今回のVer.5.0では、書面調査の評価項目が96項目から114項目へ増加し、人間ドックに加えて健康診断も評価対象となりました。また、保健指導への取り組みや実績など、より現場を重視した審査内容となりました。正確で安全な検査体制に加え、受診者数の増加に対応するための業務効率化、館内サービスやアメニティの充実など、継続的な改善への取り組みが評価され、認定を更新することができました。



健診施設機能評価認定証

④第24回健康支援教室の開催

恒例となっている健康支援教室を3月8日（日）、高崎芸術劇場大ホールで開催しました。24回目となる今回のテーマは「健康長寿で楽しい人生」。本年も2階席まで満席となる多くの方々にご来場いただきました。プログラムは例年どおり、群馬交響楽団による管弦楽演奏と医師講演の2部構成で実施しました。医師講演では、糖尿病内科部長・余財亨介医師による「糖尿病と上手く付き合っていく～健康寿命を延ばそう～」、第二内科部長・水口貴仁医師による「便潜血陽性時の二次検査の重要性」、井戸谷恵保健師による「ドックオプション検査について」、黒澤功理事長による「生活習慣病を治し健康長寿」の4題について講演し、最新の知見を取り入れた分かりやすい内容であったと、多くの来場者から好評をいただきました。また今回は、ホワイエエリアの健康相談コーナーを拡充し、保健師による血糖測定、血圧測定、呼気中一酸化炭素濃度測定に加え、測定結果をもとに説明をおこないました。これらのコーナーも多くの方にご利用いただき、大変好評でした。



群馬交響楽団の演奏



医師講演

本年も当センターの運営に際し、多くの方々からご支援を賜りましたことに心より感謝申し上げます。今後も予防医療の発展と推進に向け、積極的に取り組んでまいります。



スタッフ写真（健康支援教室にて）

3-12. ヴァレオプロ（メディカルフィットネス&スパ）

土川 洋史（副部長）

◆ 概要

ヴァレオプロは、2025年7月で創立16年を迎えました。2009年7月に厚生労働省から「健康づくりを推進する上で適切な施設（指定運動療法施設）」として認定を受け、会員の方々や職員に支えられ順調に会員数を伸ばしてきました。2026年3月時点の会員数は1,287名となっています。

当施設は指定運動療法施設の認定を受けているため、医師が発行した運動療法処方箋に基づいて利用される場合は、月会費が医療費控除の対象となります。毎年多くの方にご利用いただいております。2025年度は135名の運動処方箋を受け付けました。

また、温浴施設では、地下1,200mから湧き出す天然温泉を利用しています。サウナも完備していることから、運動の疲れを癒す場として会員の方々にとっても人気があります。泉質はナトリウム－塩化物・炭酸水素塩温泉で、神経痛、筋肉痛、関節炎などのほか、健康増進にも効果があります。

今後も、会員の方々が生涯にわたり健康で楽しく運動を続けられるようサポートし、地域に必要とされる運動施設を目指してまいります。



厚生労働省認定健康増進施設



エントランス



温浴施設

◆ スタッフ構成（2026年3月時点）

- ・健康運動指導士 3名、健康運動実践指導者 1名、理学療法士／健康運動指導士 1名
- ・管理栄養士 2名、トレーナー 4名、フロント（事務）スタッフ 5名、クリーンスタッフ 4名
- ・外部インストラクター 22名



健康運動指導士



理学療法士



管理栄養士

◆ 2025年度実績

- ・会員数：1,287名
- ・退会率：平均 1.94%（一般的フィットネスの退会率は3～5%とされている）
- ・有料プログラム指導件数
 パーソナルストレッチ 543件 パーソナルトレーニング 169件 VRCトレーニング 346件

◆ 2025年度に開催したイベント

2025年 4月

- ・春の入会キャンペーン開催 入会人数 64名
- ・春のヴァレオプロゴルフコンペ開催 (写真①)
参加人数16名

2025年 7月

- ・チーム対抗ラン&ウォーク開催

2025年 8月

- ・16周年イベント「赤城山登山」開催 (写真②)

2025年10月

- ・16周年入会キャンペーン開催 入会人数37名
- ・会員向け調理実習 (写真③)
- ・秋のヴァレオプロゴルフコンペ開催 参加人数19名

2025年11月

- ・ANNEXリニューアルオープン
- ・ぐんまマラソンに会員の方々と参加 (写真④)

2025年12月

- ・年末大抽選会開催

2026年 1月

- ・初詣ラン&ウォーク開催 (玉村八幡宮)

2026年 2月

- ・会員向け調理実習の開催

2026年 3月

- ・第1回Valeo記念 (スタッフダービー) 開催
- ・管理栄養士×ヨガインストラクターによる腸活セミナー開催

その他、クリスマスやハロウィーン、七夕、節分などには、職員が浴衣や仮装でもてなしました。また、端午の節句や冬至の日には菖蒲湯やゆず湯を用意して楽しんでいただきました。



①ヴァレオゴルフコンペ



②赤城山登山



③会員向け調理実習



④会員の方々とぐんまマラソン参加

◆ 講演活動など社会貢献活動

- ・企業セミナーにて運動指導を実施 (担当：西場)
- ・にこにこヴァレオ講座 (毎月26日開催)
- ・上毛新聞社、群馬県牛乳普及協会主催
「牛乳健康法セミナー」にて運動指導実施 (写真⑤) (担当：齋藤)
- ・アイケイ中居、アイケイ倉賀野、アイケイ矢中で健康体操を指導
(担当：トレーナー)

ヴァレオプロでは地域の方々の健康増進のため、さまざまな講演会や講習会を実施し、スポーツ施設として幅広い役割を果たせるよう努めています。また、セミナーや展示会にも積極的に参加し、スタッフのレベルアップに努め、質の高い健康指導の提供を目指しています。



⑤「牛乳健康法セミナー」にて運動指導